

(公財) 福井県健康管理協会
がん検診事業部長 松田 一夫

健康ひとくちメモ

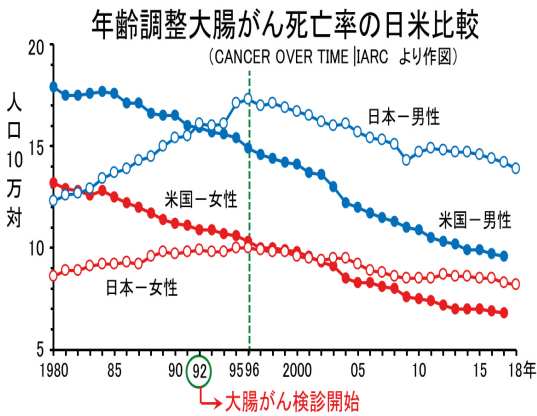
経営者・従業員のための

大腸内視鏡検査は抵抗ありますか？

日米における大腸がん死亡

大腸がんは、世界中の多くの人の命を奪います。日本の2022年における大腸がん死者数は、男性では28,099人とがんの中で2番目に多く、女性では24,989人ともっとも多くなっていました。

大腸がんは加齢とともに増えるため、日本の大腸がん死亡が諸外国より多いのかを判断するには、各国の年齢構成をそろえた年齢調整死亡率と比較します。日本の年齢調整大腸がん死亡率は1996年頃から減少していますが、米国では日本以上に著明に減少し、今や日本の半分です。



日米における大腸がん検診

米国で大腸がん死亡率が減少した理由は10年に1回の大腸内視鏡を中心とした大腸がん検診を多くの人が受けているからで、2021年の受診率は71・8%に上ります。

日本では1992年からヒトの血液にのみ反応する免疫便潜血検査を用いた大腸がん検診が開始されました。この検査は日本で開発され、多くの国の大腸がん検診に用いられています。2021年の40〜69歳の受診率は全国平均45・9%で、しかも2020年度に全国の市区町村で実施された大腸がん検診で「便潜血陽性」となったものの、大腸内視鏡による精検を受けていない人が29・8%います。職場ではもっと多くの人が精検を受けていません。

日本の精検を受けない理由

2021年のオリンパス社のアンケートによれば、便潜血が陽性となっても内視鏡による精検を受けなかった理由の1位は「痔の出血で陽性となったかもしれないから」、2位は「自覚症状がなかったから」、

3位は「痛くてつらそうだから」でした。便潜血検査が陽性となれば3〜4%に大腸がんが見つかります。しかも精検を受けず後日に大腸がんが発見されれば、精密検査を受けた人の約4倍大腸がん死亡の危険があります。便潜血検査を甘く見てはいけません。

大腸内視鏡検査のススメ

大腸内視鏡では、1〜2リットルの水を飲んで腸の中の便を全部出し、肛門から内視鏡を挿入して大腸を検査します。丁寧にすれば苦痛はありません。大腸がんで命を落とさないため、「便潜血陽性」や「肛門出血等の症状がある場合」には、必ず大腸内視鏡検査を受けてください。誰もが生涯に1回だけでも大腸内視鏡検査を受ければ、その効果は極めて大きく、日本の大腸がん死亡率を確実に減らせると考えています。

